



森繁久彌<sup>追悼</sup>&高峰秀子

原作・有吉佐和子

### 恍惚(こうこつ)の人

6月5日(土)~8日(火) 10:00

6月9日(水)・10日(木) 12:30

6月11日(金) 19:00



岸恵子&池部良

原作・川端康成

### 雪国

6月5日(土) 19:00

6月6日(日)~8日(火) 11:50

6月9日(水)~11日(金) 10:00

シ  
ネ  
マ  
サ  
ー  
ク  
ル  
J  
・  
C  
L  
A  
S  
S  
I  
C  
S

## 文学を撮る ~名匠・豊田四郎の世界~

森繁久彌<sup>追悼</sup>&淡島千景

原作・織田作之助

### 夫婦善哉(ぜんざい)

6月12日(土)~15日(火) 10:00

6月16日(水)・17日(木) 12:10

6月18日(金) 19:00

山本富士子&芥川比呂志

原作・永井荷風

### 溍東綺譚(ぼくとうきたん)

6月12日(土) 19:00

6月13日(日)~15日(火) 12:10

6月16日(水)~18日(金) 10:00

第  
1  
9  
回  
上  
映  
会



地下鉄北四番丁駅北2出口徒歩3分

フォーラム

仙台にて上映! 電話022-728-7866

J. CLASSICS 五十嵐

**恍惚(こうこつ)の人 6/5(土)~11(金)**

1973(昭和48)年 東宝(芸苑社) 100分 白黒  
スタンダード 監督 豊田四郎 キネ旬5位  
原作 有吉佐和子 脚本 松山善三  
撮影 岡崎宏三 美術 小島基司 音楽 佐藤勝  
出演 森繁久彌 高峰秀子 田村高廣 乙羽信子  
篠ヒロコ 浦辺糸子 杉葉子 中村伸郎 吉田日出子

84歳の茂造は妻を亡くして以来、認知症が進んでいた。食事を何度も要求したり、街道を放浪したり。果ては自分の息子を暴漢呼ばわりして騒ぎだす始末。彼の面倒を見る嫁の昭子にとっては大きな負担となっていた。だが雨の中、美しい泰山木の花に見入る茂造の姿に昭子は胸を突かれた。彼の美醜の感覚は失われていない…。還暦間近の森繁の演技が素晴らしい。豊田監督は言う、「この映画は年寄りの話だが、若い人にぜひ見てもらいたい」と。(秀)

**監督・豊田四郎(とよた・しろう)**

1906(明治39)年、京都に生まれる。幼少期は病弱で20歳まで生きられないと診断された。演劇に興味を抱き、1924年松竹に入社、名匠・島津保次郎の助監督となる。1929年23歳の時『彩られた唇』で監督デビューするが、興行的に振るわず助監督に戻される。5年後監督に復帰、活路を求めてトーキー専門の東京発声に移籍。1937年石坂洋次郎原作の『若い人』がキネ旬報ベストテンで6位となり注目され、翌年の林芙美子原作『泣虫小僧』や、自らの幼少期の体験を元に難病治療に奮闘する女医を描いた『小島の春』(1940年)等の秀作を発表。戦争前後は低迷を余儀なくされるが、1953年の森鷗外原作『雁』、1954年の有島武郎原作『或る女』、1955年の室生犀星原作『麦笛』で復調。1955年の『夫婦善哉』以降、1956年の谷崎潤一郎原作『猫と庄造と二人のをんな』や1957年『雪国』等、文芸映画の名匠として活躍した。また1958年の『駅前旅館』も手がけ、長寿シリーズの生みの親としても有名。名コンビ・森繁久彌と組んだ1973年『恍惚の人』は社会現象を巻き起こし大ヒット。遺作は市川崑と共同演出した『妻と女の間』。1976(昭和51)年、安楽死を描く次回作を構想中の死であった。



**雪国 6/5(土)~11(金)**

1957(昭和32)年 東宝 134分 白黒  
スタンダード 監督 豊田四郎 キネ旬脚本賞  
ブルーリボン音楽賞 原作 川端康成  
脚本 八住利雄 撮影 安本淳 美術 伊藤薫朔・園真  
音楽 団伊久磨 出演 岸恵子 池部良 八千草薫  
森繁久彌 加東大介 久保明 浪花千栄子 三好栄子

J  
・  
C  
L  
A  
S  
S  
I  
C  
S

「国境の長いトンネルを抜けると雪国だった。」文豪・川端康成不朽の名作の初映画化。雪深く埋もれた温泉地。日本画家・島村は、去年知り合った芸者・駒子の事が忘れられず、年に一度の逢瀬を重ねる仲になる。岸恵子と池部良が演じる、男と女の孤独と孤独が噛み合うような愛の激しさと哀しさ。撮影当時の岸恵子は国際結婚間近でもあり、その理知的な美しさが雪の白さに更に冴えた。と同時に、文芸映画の巨匠・豊田四郎にとって金字塔ともなった。(荻)

**夫婦善哉(ぜんざい) 6/12(土)~18(金)**

1955(昭和30)年 東宝 120分 白黒 スタンダード  
監督 豊田四郎 キネ旬2位 ブルーリボン監督賞・主演男優賞・主演女優賞 毎日映画コンクール男優主演賞 原作 織田作之助 脚本 八住利雄 撮影 三浦光雄 美術 伊藤薫朔 音楽 団伊久磨 出演 森繁久彌 淡島千景 司葉子 浪花千栄子 山茶花究

第  
1  
9  
回  
上  
映  
会

大阪新地の売れっ子芸者・蝶子は、馴染み客だった化粧品問屋の若旦那・柳吉と駆け落ちするが、彼は父親に勘当されてしまう。蝶子は必死に働き生活を支えるが、ボンボン気質が抜けない柳吉は、商売を始めようと蝶子がこつこつと貯めた金を遊んで使い果たしてしまう。甘ったれで甲斐性無し、ろくでもないが憎めない柳吉を森繁は飄々と演じ、気が強く情が深く健気な蝶子役の淡島千景は笑顔と声が魅力的。大阪の女は惚れた男にとことん尽くします。(孝)

**暹東綺譚(ぼくとうきたん) 6/12(土)~18(金)**

1960(昭和35)年 東宝(東京映画) 120分  
白黒 シネスコ 監督 豊田四郎 キネ旬女優賞  
ブルーリボン助演男優賞 原作 永井荷風  
脚本 八住利雄 撮影 玉井正夫 美術 伊藤薫朔  
音楽 団伊久磨 出演 山本富士子 芥川比呂志  
新珠三千代 乙羽信子 淡路恵子 織田政雄

中学教師の種田は、生まれてくる子供が自分の子供ではないと判っていて妻と結婚した。しかし、子供が生まれてからも、前の男の影がチラつき不満を抱えていた。そんな彼が、娼婦のお雪と出会いお互いに惹かれたことから二人の運命は変わってゆく。名匠・豊田四郎監督が永井荷風の代表作「暹東綺譚」に、「失踪」「荷風日記」を加え、永井荷風の没後一周年を記念し映画化した。純愛を貫き通したお雪を演じる山本富士子のまばゆい美しさに瞠目。(洪)

当日1作品 一般1200円・学生1000円/2回券1800円発売!